



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月2日

上場取引所 東

上場会社名 亀田製菓株式会社

コード番号 2220 URL www.kamedaseika.co.jp

代表者 (役職名) 代表取締役社長 C00 (氏名) 高木 政紀

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 CFO 兼 管理本部長 (氏名) 小林 章 TEL 025-382-2111

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	24,066	8.3	1,074	53.5	2,044	38.1	1,191	49.3
2024年3月期第1四半期	22,222	△4.6	699	△44.0	1,480	△27.1	797	△41.7

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 2,136百万円 (19.9%) 2024年3月期第1四半期 1,782百万円 (△40.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	56.52	-
2024年3月期第1四半期	37.85	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期第1四半期	121,641	74,375	58.8	3,391.13
2024年3月期	120,510	73,718	58.0	3,317.24

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 71,496百万円 2024年3月期 69,938百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	15.00	-	41.00	56.00
2025年3月期	-	-	-	-	-
2025年3月期（予想）	-	15.00	-	42.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	48,400	9.8	1,400	63.8	2,000	△6.7	900	△8.2	42.69
通期	102,000	6.8	5,000	11.9	6,800	0.0	3,800	68.4	180.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期1Q	22,318,650株	2024年3月期	22,318,650株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	1,235,240株	2024年3月期	1,235,240株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期1Q	21,083,410株	2024年3月期1Q	21,083,603株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料は2024年8月9日（金）に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や能登半島地震等による一時的な経済活動の停滞などから緩やかな回復が見られました。一方、物価上昇の影響から個人消費の回復は力強さに欠ける中、不安定さが続く国際情勢、円安の定着がもたらす原材料・エネルギー価格のもう一段の高騰が更なる消費マインドの冷え込みを引き起こす懸念もあり、先行き不透明な状況が続いています。

国内の食品企業においては、これらの経済環境を踏まえ、厳しい舵取りが続いています。

こうした中、当グループは、「中長期成長戦略2030」の実行に向けて取り組んでいます。お米の恵みを美味しさ・健康・感動という価値に磨き上げ、お客様の健やかなライフスタイルに貢献する、“Better For You”をパーパス（存在意義）として位置づけ、お米の可能性を最大限に引き出し、世界で新価値・新市場を創造する姿、ビジョン（目指す姿）“ライスイノベーションカンパニー”の実現を通じて持続的な成長と企業価値向上を目指しています。

2024年度は、“ライスイノベーションカンパニー”の実現を目指して、独自価値創造型企業への基盤を固めるため、国内米菓事業の独自価値訴求によりキャッシュ創出力を高めるとともに、成長エンジンとなる海外事業と食品事業の拡大を図るための事業ポートフォリオ再構築に向けた様々な施策に取り組んでいます。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、国内米菓事業、海外事業、食品事業ともに前年同四半期を上回る実績を確保し、24,066百万円（前年同四半期比8.3%増）となりました。

営業利益については、海外事業の損失が前年同四半期から拡大しましたが、国内米菓事業および食品事業が増益となり、1,074百万円（前年同四半期比53.5%増）となりました。また、経常利益は、営業利益の増加および持分法による投資利益の増加により、2,044百万円（前年同四半期比38.1%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,191百万円（前年同四半期比49.3%増）となりました。

各セグメントの概況は、次のとおりであります。

<国内米菓事業>

国内米菓事業については、商品性にこだわり、独自価値訴求型の競争戦略への転換を加速するとともに、安定したサプライチェーンマネジメントの確立を図ることで収益基盤の強化に取り組んでいます。

重点ブランドは従来の「亀田の柿の種」「ハッピーターン」「亀田のつまみ種」「無限」シリーズの4ブランドに「技のこだ割り」「こつぶっこ」を加えた6ブランドとし、消費者コミュニケーション強化、ブランド価値強化に努めています。

「亀田の柿の種」はお酒のおつまみにとどまらず国民のお菓子を指して親子で楽しめるスナック需要への拡張、「ハッピーターン」は子どものおやつ需要に加えておつまみ需要への拡張を目指した商品ラインアップ拡充やこれに連動したブランドコミュニケーションを実施しました。「無限」シリーズは昨年に続き人気コンテンツとのコラボレーションキャンペーンを実施するなど若年層の獲得に向けた取り組みを進めています。また、ブランド力を活かしたCVSチャネル強化や製法にこだわった新価値商品や高付加価値商品の展開・開発など顧客起点でブランド・製品の独自性に磨きをかける取り組みを進めました。加えて、商品戦略に連動する形で生産能力増強や適正価格販売、販売促進費用の効率的な執行等、価値訴求に軸足を置いた活動を展開しました。

これらの取り組みの結果、重点6ブランドの売上高については「亀田の柿の種」「ハッピーターン」「亀田のつまみ種」「こつぶっこ」が前年同四半期を上回った一方、「無限」シリーズ「技のこだ割り」は前年同四半期を下回りました。

また、百貨店向け商品や土産物用商品を製造販売するグループ会社は、コロナ禍後の需要回復は一巡したものの新規店舗の出店効果もあり堅調に推移しました。これらの結果、国内米菓事業全体の売上高は16,955百万円（前年同四半期比5.4%増）となりました。

営業利益については、単体米菓において前期に実施した商品の価格改定・規格変更の効果に加え、重点6ブランドへの集中化による筋肉質なポートフォリオへの転換、販売促進費用の効率的な執行、商品の絞り込みや外部生産委託の活用による生産効率の向上など各種施策に継続的に取り組んでいます。また、百貨店向け商品や土産物用商品を製造販売するグループ会社においては、コロナ禍後の需要回復は一巡したものの底堅い需要に支えられ堅調に推移したことで、国内米菓事業全体の営業利益は1,097百万円（前年同四半期比16.9%増）となりました。

<海外事業>

海外事業については、北米のMary's Gone Crackers, Inc.は売上拡大に向けて販路開拓に取り組んでおり、それに即した商品開発を行っています。業績回復の途上にあり減収となりました。一方アジア地域は総じて好調に推移し、中でもタイのSingha Kameda (Thailand) Co., Ltd.におけるクロスボーダー取引拡大などが寄与し、海外事業全体の売上高は3,603百万円（前年同四半期6.8%増）となりました。

営業利益については、タイのSingha Kameda (Thailand) Co., Ltd.におけるクロスボーダー取引の拡大や中国の青島亀田食品有限公司の業績改善効果など、アジア地域が総じて好調に推移し、同地域では着実な利益成長を果たしました。一方、Mary's Gone Crackers, Inc.が生産効率改善に取り組んでいるものの、減収影響により減益となった結果、海外事業全体では166百万円の営業損失（前年同四半期は営業損失113百万円）となりました。

<食品事業>

食品事業については、長期保存食が防災意識の高まりを受けて個人需要を中心に前年同四半期を大きく上回り、米粉パンもアレルギー28品目不使用の米粉パンなどの取り扱い拡大により好調に推移しました。さらに、植物性乳酸菌についても、機能性を訴求し差別化を図ることで販路拡大に取り組み前年同四半期に比べ増収となりました。一方で、プラントベースフードは植物性原料100%の「グリーンチキン」の販路拡大やBtoB市場開拓に継続して取り組みましたが減収となりました。これらの結果、食品事業全体の売上高は1,724百万円（前年同四半期比54.2%増）となりました。

営業利益については、プラントベースフードや米粉パンの規模拡大に向けた先行投資負担の増加を長期保存食の増収影響が上回り、37百万円（前年同四半期は営業損失184百万円）となりました。

[補足情報]

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	対前年同四半期比	
			増減額	増減率
売上高	22,222	24,066	1,843	8.3%
国内米菓事業	16,084	16,955	870	5.4%
海外事業 ※1	3,374	3,603	229	6.8%
食品事業 ※2	1,118	1,724	605	54.2%
その他（貨物運送等） ※3	1,645	1,782	136	8.3%
営業利益	699	1,074	374	53.5%
営業利益率	3.1%	4.5%		
国内米菓事業	938	1,097	158	16.9%
海外事業 ※1	△113	△166	△52	—
食品事業 ※2	△184	37	221	—
その他（貨物運送等） ※3	58	105	47	80.8%

※1 海外事業は、海外子会社に加え、国内の輸出入取引を含んでおります。

※2 食品事業の主な内容は、長期保存食、植物性乳酸菌、米粉パンおよびプラントベースフード等でありま

す。

※3 その他の主な内容は、貨物運送等であります。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は32,983百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,224百万円の減少となりました。これは主に「現金及び預金」が1,380百万円、「商品及び製品」が755百万円それぞれ増加した一方、「受取手形、売掛金及び契約資産」が2,766百万円、「その他」が581百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定資産は88,657百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,355百万円の増加となりました。これは主に有形固定資産の「その他」が1,945百万円、「投資有価証券」が587百万円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、総資産は121,641百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,130百万円の増加となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は30,750百万円となり、前連結会計年度末に比べ893百万円の増加となりました。これは主に「短期借入金」が1,216百万円、「賞与引当金」が834百万円それぞれ増加した一方、「支払手形及び買掛金」が215百万円、「未払法人税等」が314百万円、「その他」が1,184百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は16,514百万円となり、前連結会計年度末に比べ419百万円の減少となりました。これは主に「長期借入金」が380百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は47,265百万円となり、前連結会計年度末に比べ473百万円の増加となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は74,375百万円となり、前連結会計年度末に比べ656百万円の増加となりました。これは主に「資本剰余金」が548百万円増加、「親会社株主に帰属する四半期純利益」1,191百万円および「剰余金の配当」864百万円により「利益剰余金」が327百万円増加したことや、「為替換算調整勘定」が744百万円増加、「非支配株主持分」が901百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は58.8%（前連結会計年度末は58.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の第2四半期連結累計期間および通期の業績予想につきまして、下記のとおり修正いたします。

当第1四半期の業績は、国内米菓事業の収益性改善に向けた取り組みが想定以上の成果をあげたことに加え、食品事業における長期保存食の需要が好調に推移したことで、第2四半期（累計）の業績予想を上回る見通しとなりました。

足元の事業環境につきましては、昨年に続く猛暑による需要の落ち込みや原料米価格の高騰、想定を超える円安による輸入物価の高騰など厳しさを増していますが、第1四半期の業績を踏まえ前回発表予想を上方修正いたします。

2025年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	47,000	900	1,300	350	16.60
今回修正予想(B)	48,400	1,400	2,000	900	42.69
増減額(B-A)	1,400	500	700	550	—
増減率(%)	3.0	55.6	53.8	157.1	—
(ご参考)前年同期実績	44,067	854	2,144	980	46.48

2025年3月期通期連結業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	100,000	4,500	5,700	2,900	137.55
今回修正予想(B)	102,000	5,000	6,800	3,800	180.24
増減額(B-A)	2,000	500	1,100	900	—
増減率(%)	2.0	11.1	19.3	31.0	—
(ご参考)前年実績	95,534	4,467	6,798	2,257	107.06

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,217	10,597
受取手形、売掛金及び契約資産	15,114	12,347
商品及び製品	2,987	3,742
仕掛品	757	862
原材料及び貯蔵品	4,038	3,932
その他	2,106	1,525
貸倒引当金	△13	△25
流動資産合計	34,208	32,983
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	18,990	18,904
機械装置及び運搬具（純額）	20,279	19,839
その他（純額）	12,801	14,746
有形固定資産合計	52,071	53,490
無形固定資産		
のれん	2,085	2,089
顧客関係資産	816	802
商標資産	730	718
技術資産	453	445
その他	1,169	1,265
無形固定資産合計	5,255	5,322
投資その他の資産		
投資有価証券	17,336	17,923
その他	11,682	11,964
貸倒引当金	△43	△43
投資その他の資産合計	28,975	29,844
固定資産合計	86,302	88,657
資産合計	120,510	121,641

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,563	4,347
電子記録債務	3,014	3,637
短期借入金	9,652	10,869
未払法人税等	1,101	786
賞与引当金	1,516	2,351
役員賞与引当金	94	22
資産除去債務	70	75
その他	9,844	8,659
流動負債合計	29,856	30,750
固定負債		
長期借入金	11,189	10,808
退職給付に係る負債	582	593
資産除去債務	298	295
その他	4,865	4,817
固定負債合計	16,934	16,514
負債合計	46,791	47,265
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,946	1,946
資本剰余金	170	719
利益剰余金	60,260	60,588
自己株式	△1,903	△1,903
株主資本合計	60,474	61,350
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,023	1,019
為替換算調整勘定	5,846	6,590
退職給付に係る調整累計額	2,594	2,535
その他の包括利益累計額合計	9,463	10,145
非支配株主持分	3,780	2,878
純資産合計	73,718	74,375
負債純資産合計	120,510	121,641

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	22,222	24,066
売上原価	16,405	17,373
売上総利益	5,816	6,692
販売費及び一般管理費	5,117	5,618
営業利益	699	1,074
営業外収益		
受取利息	36	29
受取配当金	26	30
持分法による投資利益	—	262
為替差益	684	629
その他	72	51
営業外収益合計	820	1,003
営業外費用		
支払利息	23	26
持分法による投資損失	5	—
その他	10	6
営業外費用合計	39	33
経常利益	1,480	2,044
特別損失		
固定資産処分損	29	39
特別損失合計	29	39
税金等調整前四半期純利益	1,450	2,004
法人税、住民税及び事業税	468	736
法人税等調整額	99	△32
法人税等合計	568	703
四半期純利益	881	1,300
非支配株主に帰属する四半期純利益	83	109
親会社株主に帰属する四半期純利益	797	1,191

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	881	1,300
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	118	△4
繰延ヘッジ損益	△0	—
為替換算調整勘定	△250	△0
退職給付に係る調整額	△12	△58
持分法適用会社に対する持分相当額	1,046	899
その他の包括利益合計	900	835
四半期包括利益	1,782	2,136
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,633	1,873
非支配株主に係る四半期包括利益	148	263

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	1,490百万円	1,569百万円
のれんの償却額	42	44

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	国内 米菓	海外	食品	計				
売上高								
顧客との契約か ら生じる収益	16,084	3,374	1,118	20,576	1,645	22,222	—	22,222
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	16,084	3,374	1,118	20,576	1,645	22,222	—	22,222
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1	351	5	358	1,354	1,712	△1,712	—
計	16,085	3,725	1,124	20,934	3,000	23,935	△1,712	22,222
セグメント利益 又は損失(△)	938	△113	△184	641	56	697	2	699

(注) 1. 「その他」には、貨物運送等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額2百万円は、セグメント間取引消去2百万円であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益計算書計上額 (注) 3
	国内米菓	海外	食品	計				
売上高								
顧客との契約から生じる収益	16,955	3,603	1,724	22,283	1,782	24,066	—	24,066
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	16,955	3,603	1,724	22,283	1,782	24,066	—	24,066
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	430	0	433	1,395	1,828	△1,828	—
計	16,957	4,034	1,724	22,716	3,178	25,894	△1,828	24,066
セグメント利益又は損失(△)	1,097	△166	37	968	99	1,068	5	1,074

(注) 1. 「その他」には、貨物運送等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額5百万円は、セグメント間取引消去5百万円であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。